

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	生涯学習課
職	課長
氏名	篠原 恵美子

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
<p>生涯にわたる学習やスポーツ活動により、心身ともに健やかで、心豊かな人づくりをめざすとともに、一人一人の個性や適性に応じたきめ細かな教育を押し進め、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身につけた、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくりをめざします。</p>	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値ほどのような水準か					
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか					
<p>① 県民一人一人が、自分らしい学びを通し、新しい自分を見付けるとともに、様々な出会いや交流をすることで、自らの成長と自己実現を図り、その成長を生かすことのできる社会づくりをめざします。</p> <p>② すべての教育の出発点である家庭や子どもたちの活動の場である地域が学校と連携し、様々な形で教育活動に協力し合うことを通して、相互理解と信頼を深め、互いに教育力を高め合い、社会全体で子どもたちを健やかに育てることをめざします。</p> <p>③ 本県の豊かな風土や、そこで培われた多彩な文化、歴史など、石川ならではの教育資源を活用し、一人一人が様々な体験活動を通して学ぶ喜びや楽しさ、手応えを実感するとともに、郷土石川を愛し、誇りに思う意識をはぐくむ教育を展開します。さらに石川を自己存立の基盤としながら、多様な文化が織りなす世界の国々や地域の中で、主体的に活躍できる視野の広い行動力のある人づくりをめざします。</p>						
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する					
	目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①	県立生涯学習施設年間利用者数	368,742人	H27 年度	380,000人	H37 年度	石川県新長期構想(平成28年3月改定)
②	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	8,674人	H27 年度	9,000人	H32 年度	第2期石川の教育振興基本計画(平成28年3月策定)
③	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	7,217人	H27 年度	6,000人	H32 年度	第2期石川の教育振興基本計画(平成28年3月策定)



28年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
① 県民大学の充実	石川県民大学校や大学院の一層の充実を図るとともに、県民大学校能登校における講座開催により、県民の多様な学習ニーズに応える。
① 図書館マルチ検索・予約システムの運営	県立図書館では、県内外を含む複数の図書館の蔵書情報をインターネットを通じて検索できる国立国会図書館総合目録ネットワークやマルチ検索・予約システムの更なる利用促進を図る。
② 心の教育の推進	「心の教育推進協議会」が中心となり、学校・家庭・地域が相互に連携しながら、自尊感情を育てるとともに、自立心や自律性、生命を尊厳する心、美しいものや自然に感動する心、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度などをはぐくむ「心の教育の充実」を図るための各種事業を展開する。
② 親学び講座「肝心かなめの1年生塾」の開催支援	小中学校入学前の子どもを持つ保護者に対して、規則正しい生活リズムの重要性や、成長や発達段階に応じた親の役割、子どもとの関わり方などを掲載した親学びに関する冊子を配付するとともに、県内全小中学校における親学び講座の開催を支援することによって、家庭の教育力の向上をめざす。
② インターネット等の適正利用の推進	スマートフォンやインターネット接続機能を備えた携帯型ゲーム機・音楽プレイヤー等の普及に加えて、無線LANサービスの提供などにより、子どもたちがインターネットに容易に接続できる環境が広まる中で、インターネットの有効な活用方法と危険性について子どもたちに適切に指導するために、教員や保護者に対して正しい知識を持つための周知啓発を行うなど、学校・家庭が連携して適正なネット利用の推進を図る。
③ いしかわ子ども自然学校の実施	白山青年の家及び少年自然の家を中心に県内の関連施設や市町と連携して「いしかわ子ども自然学校」を推進することにより、子どもたちに石川の豊かな自然を生かした四季折々の自然体験の機会を提供し、自然を大切に作る心やたくましく生きる力を育む。
③ 海洋チャレンジプログラムの実施	海洋体験活動を通して、小中学生に石川の海の豊かさや自然の摂理を実感させ、自然体験活動や環境に関する教育の充実を図る。